

地震
備えて安心 51
～南海地震を想定した
災害への備え～

黒潮町消防協議会が
山口県豪雨災害視察
研修に行きました

黒潮町消防団、黒潮消防署及び黒潮町で構成する黒潮町消防協議会の11名が、7月8日から9日にかけて、昨年山口県の南部を中心として発生した豪雨災害の被災地である山口県防府市へ視察研修に行きました。シーズンを迎えている風水害対策の参考とするため、視察研修の報告をします。



現在も災害の爪痕が残る被災現場

山口県豪雨の被害の概況

山口県中南部に位置する防府市は、昔から雨が少なく晴れる日が多い地域でしたが、平成21年7月21日、2日前から梅雨前線の停滞により降り続いてきた雨が、明け方から猛烈な雨となり、最も多い時で1時間に70mmを記録しました。この豪雨は24時間で257mmという凄まじさで、防府市では各地で大規模な災害が発生し、多数の家屋が滅失または浸水し、一部の道路や堤防が損壊しました。

特に、防府市真尾地区の特別養護老人ホームでは大規模な土石流が発生し、多数の入所者が死傷したほか、別の地区で救助に向かった消防隊員が大規模な鉄砲水に流される二次災害も発生しています。

報告書から(抜粋・編集しています)

防府市消防本部の対応について、この豪雨災害に関する当日の119番通報は307件ののぼり、全職員を招集して対応に当たるとも、119番通報要請が飽和状態となり消防署の対策本部

が機能不全となってしまったため、市との連携も上手くいかなかったようです。消防団の災害対応としては、被害状況の調査や土のう作成、避難誘導などを行い、必死の災害対応をしていたことが伺えました。しかし、特別養護老人ホームの調査に行った消防団にトランシーバーしかなかったことや携帯電話が不通であったこと、現場の悲惨な状況に圧倒された団員が救出作業に没頭してしまったことにより現場の情報は消防本部に入ってこなかったそうです。そのため本格的な救助・捜索は1時間以上遅れてしまったようです。

防府市消防本部では、この豪雨災害での教訓として、**①現場における安全管理** 災害現場の隊員は活動に集中して周りの注視が難しいため、警戒をする人員を配置することが必要。

②関係機関の情報共有 消防署員や消防団員など、実際に見た現場の状況を災害対策本部へ情報として送ることが、避難勧告などの判断基準や早めの

対応につながる。**③避難勧告等の具体化** 避難区域の選定をし、住民への情報伝達方法や避難場所の選定、避難生活をするための備蓄品など、災害対策マニュアルなどを作成しその検証が必要。

④避難生活の対応 避難生活が始まると不安と心配、ストレスに対する対応が必要。**⑤自主防災組織の育成** 災害が広範囲で発生すると消防・行政のみでの対応は困難になり、各地域に立ち上げた自主防災組織の機能を高めることが重要。

黒潮町では、近年大きな風水害は発生していませんが、防府市の教訓はとも参考となるものでした。黒潮町消防協議会では、今回の研修で得たことを風水害や近い将来必ず来る南海地震の備えに生かすため、身近な助け合いや、自主防災組織の重要性を確認し、関係機関が協力しあって更なる取組みを進めて行きたいと思えます。

黒潮町では、近年大きな風水害は発生していませんが、防府市の教訓はとも参考となるものでした。黒潮町消防協議会では、今回の研修で得たことを風水害や近い将来必ず来る南海地震の備えに生かすため、身近な助け合いや、自主防災組織の重要性を確認し、関係機関が協力しあって更なる取組みを進めて行きたいと思えます。

消防団員募集!!

地域に密着している消防団は、地域防災の要として災害から人命と財産を守り続けてきた歴史があり、深い信頼を得ています。あなたも消防団員の一員となり、「自分たちの地域は自分たちで守る」ための活動をしませんか？

○ご相談・ご連絡は

最寄りの消防分団、黒潮町役場総務課消防防災係 (☎43-2112)、佐賀支所地域住民課総合窓口第1係 (☎55-3113) までご相談・ご連絡ください。



●このページの記事に関するお問い合わせは、以下をお願いします。

【本庁】総務課 消防防災係 ☎43-2112(直通) 【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係 ☎55-3113(直通)